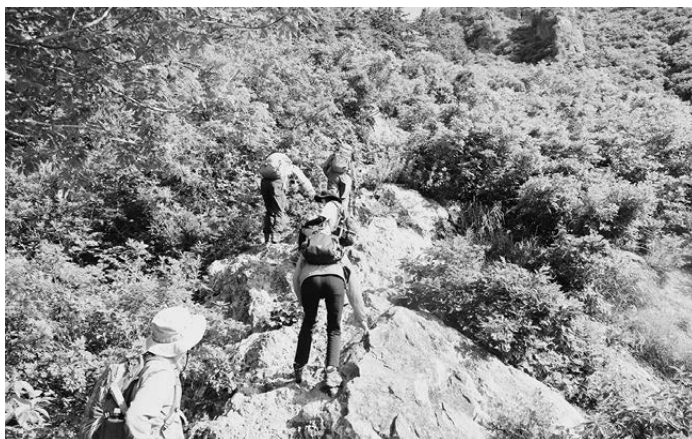


今年も多くの登山客が参加

蒲生岳、会津朝日岳、浅草岳で山開き

6月2日、「会津のマッターホルン」蒲生岳（828m）の山開きが行われ、町内外から約250人が参加しました。蒲生岳の山開きは、四名山で唯一、地元集落によって開催されており、登山道の整備や下山後のふるまいなども集落の方々が行っています。

蒲生集会施設「雪の里」で行われた開山式の後、登山を開始した皆さんは、快晴の中、眼下に広がる美しい景色や道中の新緑を楽しみながら、往復約4時間の道のりを満喫しました。



▲高度感のある岩場を登る（蒲生岳）



▲雪が残る箇所も（会津朝日岳）

道中では、登山客の皆さんが「登るのは少し大変だが、連続する岩場が只見の山の醍醐味。景色も最高です。」と話してくれました。

6月9日の会津朝日岳（1,624m）、23日の浅草岳（1,585m）の山開きでは、それぞれ149人、187人の参加者があり、今年も多くの登山客が只見四名山の山開きを楽しみました。（要害山は5月12日に開催）

季節の味に舌鼓

山の幸山菜まつりを開催

6月2日、塩沢農村公園で「第23回山の幸山菜まつり」（主催：塩沢区・十島区山菜まつり実行委員会）が開催され、町内外から多くの人が訪れました。

会場では、旬の山菜を使った山菜汁や地元産の十割そば、天ぷらやハヤの唐揚げが並び、来場者は心地よい春の風に当たりながら、季節の味に舌鼓を打っていました。

同日に蒲生岳の山開きが行われたため、登山後に会場を訪れ、料理を味わう人の姿も多く見られました。



▲タケノコの天ぷらなどが並び



▲多くの人が季節の味を堪能した

悪天候にも負けず！

トリムウォーク&トリムランに 多くの皆さんが参加！

6月16日、只見駅前特設会場を中心に「第8回トリムウォーク&トリムラン」が開催され、町内外から約250人の申し込みがありました。

同イベントは、自分のペースで完歩・完走することが目的で、申告タイムと実際タイムの誤差が少ない人が優勝となります（速さを競う湖岸マラソンも同時開催）。当日は雨と強風による悪天候の中の開催でしたが、参加者は3.5km、6km、10kmに分かれ、雨風に負けず、元気にゴールを目指しました。



▲スタート前に入念な準備体操



▲雨具を着て元気にスタート！

閉会式では、各コースで誤差の少なかった方やユニークな仮装をした方などが表彰を受け、雪むろで貯蔵していたお米、お酒などが景品として渡されました。

また、会場にはキッチンカーや商工会女性部の屋台が並び、ゴール後の疲れた身体を癒すべく、食事を楽しむ皆さんの姿が印象的でした。

今年の特別ゲストは、箱根駅伝で東洋大学3度の総合優勝に貢献した「山の神」柏原竜二さん（富士通）と例年参加いただいている冒険家の風間深志さんでした。

只見高校陸上部の生徒と一緒にコースを回った柏原さんは、身体に負担をかけない走り方などを参加者にアドバイスしながら、風間さんは持ち前のキャラクターで皆さんにパワーを届けながら、多くの人たちと交流しました。



▲柏原竜二さん（富士通）



▲風間深志さん

ハイキングを楽しみながら地元の良さを再発見！

第3回明和ふるさとハイキング

6月2日、明和自治振興会が主催する「第3回明和ふるさとハイキング」が開催され、町内を中心に約30人が参加しました。季の郷湯ら里前の芝生広場をスタートした参加者は、2時間ほどかけて余名沢から比良林公園を通る散策コース(2.2km)を歩き、同イベントを楽しみました。今回はブナセンター職員が同行し、植物の名前や生態の解説を実施したこともあり、参加者は地元について再発見する良い機会となりました。



▲ブナセンター職員の案内により、道中で植物の生態などを学んだ

今年は東京駅前で！

修学旅行で只見町の魅力をPR



▲東京駅前でパンフレットを配る児童

6月6～7日、町内3小学校の6年生28人が修学旅行で東京都などを訪れ、東京駅前で只見町のPR活動を行いました。同活動は3年前から修学旅行に合わせて実施されており、児童たちにとって多くの人と会話し、交流ができる貴重な機会となっています。今回は、東京駅前を行き交う人たちに町の良いところや特産品などを紹介した手作りのパンフレットを配り、本町の魅力をPRしました。また、町の魅力を発信することで、自分たちも只見町のことを再認識する良い機会となりました。

親子で学び、楽しむ機会に

子どもクラブ親子教室を開催

6月9日、朝日振興センターで今年度1回目となる「子どもクラブ親子教室」が開催され、約30人の保護者・子どもたちが参加しました。

当教室は、親子のコミュニケーションに限らず保護者の学びの場づくりを作ることが目標とされており、今回は、「スマホとタブレットの使用」を題材に保護者向けの講演会が行われました。

講演の間、子どもたちはみんなで竹とんぼ作りや昔語りを楽しみ、親子共に有意義な時間を過ごしました。



▲子どもたちのゲーム・タブレットの利用の仕方などについて解説された保護者向け講演会

只見線の復旧を願って

チャリティーショーを開催

6月16日、JR只見線の全線運行再開などを応援する「歌と踊りのチャリティーショー」が季の郷湯ら里で開催され、昼・夜の部合わせて約250人を超える皆さんが参加しました。同イベントは、カラオケ店「夢広場」(大倉)が主催し、今年で9回目の開催となります。

当日は、夢広場の角田初美さんより、只見線の復旧に活用してほしいとして67,419円が菅家町長に手渡されました。また、ゲストとして参加した演歌歌手の皆さんが会場を盛り上げました。



▲昼・夜の部で多くの方が参加した



▲角田さん(右)から募金箱が手渡された



▲最初に水墨画を鑑賞した(右が高橋先生)



▲いざ描いてみると難しい!

日本古来の文化に触れる

只見小学校で

水墨画教室を開催

6月21日、相国寺承天閣美術館(京都市)副館長・学芸統括で美術史家の高橋範子先生による水墨画の授業が只見小学校で開催されました。

今年で6回目の開催となる同教室では、福島県にゆかりのある「雪村」などの作品をプロジェクターで鑑賞しました。その後、室町時代に描かれた本物の水墨画を真似して同じ絵を描いてみるという流れで行われました。児童たちは、筆の使い方などに苦戦しながらも一生懸命に絵を描き上げ、水墨画の魅力に触れる貴重な機会となりました。

～水彩画で只見町の魅力を伝える～

目黒 道夫さん

只見町黒沢生まれの目黒道夫さん(埼玉県在住)は、水彩画を通じ、ふるさと・只見町の美しい風景を多くの人に伝えています。5～6月には埼玉県鴻巣市の「ギャラリーカフェ ストック」で個展を開催されました。

素敵な作品の数々には、JR只見線の全線運行再開への想いも込められています。



▲目黒道夫さん(ギャラリーカフェ ストックで)